



博物館だより

Vol.207 2012.7

ミニミニマインズ

平成24年度 鉱業博物館第2回特別展示

平成24年6月11日(月)～8月19日(日)

(好評につき開催期間を延長しました)

「秘蔵蔵出し絵画・写真展」

現在、当館2階特別展示室で開催中の特別展示「秘蔵蔵出し絵画・写真展」が大変好評です。

絵画は、角館出身の寺澤孝太郎が活力ある鉱山とそこでたくましく働く鉱夫たちの様子を描いた『小坂鉱山製錬所』をはじめとして、ダイナミックな鉱山の絵画を展示しました。一方写真には秋田鉱山専門学校開学当時の大正から昭和の時代の校舎や授業風景、学生生活の様子、また秋田市内の風物などが映し出されています。見学者の方は珍しい写真に見入って、懐かしさに浸っています。

貴重な展示品全81点の中から、その一部をご紹介します。

大正2年 開校当時



開校記念式典



開校を祝う提灯行列

昭和のころ



鉱山学部事務室と自動車庫 35ア28

渡邊 萬次郎 第2代学長による鉱山学部事務室と自動車庫のスケッチ(昭和35年)。校舎や学内の風景が残されている

懐かしの路面電車。昭和40年まで秋田市内を運行していた→



鉱業博物館建設の様子(昭和36年)



学生生活

遊びといえばスマートボールが大流行した(昭和40年頃)→



削岩実習の様子。学生たちはドリルで火薬の埋込み穴を開けている



実習後の岩石。博物館玄関前にその産物が展示されている

鉱業博物館市民開放講座のお知らせ

平成24年度 第3回鉱業博物館市民開放講座を下記のとおり開催します。入館・聴講ともに無料、事前申し込み不要でどなたでも聴講いただけます。どうぞお気軽にご参加ください。

世界第1位の地熱資源大国インドネシアの地熱発電急成長への戦略・地中熱利用冷房の研究

—地熱システム、開発方針、政策等の日本との比較・省エネ冷房への取り組み—

- 日時：7月31日(火) 15:00～16:30
- 場所：鉱業博物館3階講堂
- 講師：フリハディ・スミンタディレジャ博士 (インドネシアバンドン工科大学准教授) 高島 勲 鉱業博物館研究員

この機会に3階の地中熱システムも体感してみよう!

博物館無料開放!

～秋田大学オープンキャンパス～

秋田大学オープンキャンパスの日は終日無料開放いたします。皆さまお誘いあわせのうえ、博物館においでください。

■平成24年7月28日(土)9:00～16:00

博物館を見学しよう!

～秋田大学子ども見学デー～

子ども見学デーの一コースとして、当館では館内を無料開放し見学者を受け入れています。サイエンスボランティアの皆さんによる展示案内もあります。

■平成24年8月9日(木)10:10～11:40

鉱石のおみやげもあるよ!



平成24年度 第2・3回 サイエンスボランティア講習会

平成24年4月24日(火)・25日(水)の2日間にわたって第2・3回サイエンスボランティア講習会を開催しました。昨年10月のリニューアルオープン後、さらに充実した展示となるよう随時細かな修正を行ってきましたが、今回は半年が経過してリニューアルが一段落した館内や館外展示を改めて案内しました。当館専任講師の西川 治先生と、鉱業博物館主事の今井 忠男先生が展示の見どころや案内のポイントを丁寧に解説し、一つ一つじっくりと展示物の見学をしました。

その様子をビデオ撮影してDVDを作成し、サイエンスボランティアの皆さんの勉強用として活用していただけるように貸出しを行っています。

資源関連のコーナー。今井先生が解説する様子を千田学芸員がビデオに収めました→



←岩石コーナーにて。ベテランのサイエンスボランティアの皆さんも新しい知識の吸収に余念がありません。右は西川先生

鉱業博物館が紹介されました



デアゴスティーニ発行の『自然の芸術 神秘の結晶 地球の鉱物コレクション No.119』(7月17日発売)に当館の紹介記事が掲載されました。

2 ページを割いた博物館探訪のコーナーで、「日本唯一の鉱業専門博物館」として取り上げて、多様な分類展示や、秋田を代表する「黒鉱」、立体的に

見る鉱山資料などに焦点をあてて紹介しています。6月に撮影された展示物の写真を豊富に用いて、当館の魅力を伝えています。



取材を受ける西谷忠師館長↑

鉱業博物館テレビCM放映中

当博物館の認知度を高め、幅広い層への情報発信を目指して、5月21日(月)よりテレビ放送で当館の映像が放映されています。

美しい鉱石や館内の様子が県内の天気予報のバック映像として映し出されていて「CMを見て初めて博物館を知った」「きれいな石を見て行ってみたいと思った」等の声をいただいています。またCMを見たことがきっかけで理科学習の見学に来てくださった中学校もありました。このCMは8月13日(月)まで放映されます。



- 秋田テレビ(8チャンネル)
- めざましテレビの地方枠天気予報内
毎週月曜日 6:52~6:54

撮影に使用された色鮮やかな硫黄

標本の紹介 秋田鰐銭(地方貨幣)

今回は新着標本を紹介しします。

秋田鰐銭とは、久保田藩(秋田藩)内で流通させた地方貨幣で、久保田藩第12代藩主、佐竹義堯(よしとか)公の刀の鰐を模して鑄造されたといわれています。

阿仁鉱山の銅や太良(だいら)鉱山の鉛などを原料にして、加護山吹分処*で製造されました。

表面には縦孔の周りに雌雄の鳳凰が巴型に描かれていて、鳳凰の尾の長さによって「長尾」「中尾」「短尾」の3種類に分類されています。また裏面には八卦模様デザインされていますが、これは儒教の八徳を表しているといわれています。側面には文久年間を示す「久」の文字が刻まれています。

現在当館中央ホールでは秋田鰐銭とともに幕末期に秋田藩で密造していた天保通宝も展示しています。

9月より開催の特別展示では、秋田鰐銭や天保通宝の他にも、珍しい秋田の古銭を取り上げて展示いたします。どうぞお楽しみに！



←鳳凰のデザインがほどこされた秋田鰐銭。鳳凰は比内鶏だという説もある。左図は「長尾」



↑裏面は八卦の文様。八徳とは仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌

*加護山吹分処

秋田藩が1775年に阿仁鉱山近くに建設した製錬所。加護山吹分処では幕府の権力の衰えた幕末期に、阿仁鉱山から生産される銅や銀を用いて各種の貨幣を大量に密鑄していた。現在のきみまち坂公園の近くに跡地がある

加護山製錬所絵図(畑中家蔵)→

